



少年少女
世界の名作

フランス—3



ペロー童話

ガルガンチュワ
物語

田園の保安官

ものいう
かしの木

紙カヌーの
冒険

奇巖城

◆NDC909 小学館版 362p 24.7cm

ワイドカラー版

少女少女世界の名作／22巻／フランス編3

ペロー童話／ガルガンチュワ物語／田園の保安官

ものいのかしの木／紙カヌーの冒険／奇 巖 城

昭和47年7月25日 初版第1刷発行

編集著作権
所有・発行者 相 賀 徹 夫
東京都千代田区一ツ橋2-3-1

印刷所 大日本印刷株式会社
東京都新宿区市谷加賀町1-12

本文用紙 本州製紙株式会社

表紙Sベラン 特種製紙株式会社

発行所 株式会社 小 学 館

東京都千代田区一ツ橋2-3-1
〔郵便番号〕101〔振替〕東京 200
〔電話番号〕東京 03-263-2111

造本には十分注意しておりますが、
万一落丁、乱丁などの不良品の場合
は、おとりかえいたします。

©1972 株式会社 小学館 Printed in Japan

少年少女
世界の名作



Contes de ma Mère Loyer
Histoires ou Contes du Temps Passé

ペロー童話

ペロー原作

Voyages du Canot en Papier le «Qui-Vive»

紙カヌーの冒険

ボーガン原作

L'Aiguille - creuse

奇巖城

ルブラン原作

ほか



ガルガンチュワ物語

天下に知られる豪傑ガルガンチュワ。花の都パリへ武者修業。ノートルダム寺院にこしかけ、パリ見物を楽しむガルガンチュワに、おしかけたパリっ子もおおさわぎ。



雲のあいだからさす、かすかな月の光に照らしだされた古い城。
『ああ、あれがめざす城！ あの中に父が……。』イジドールの
胸は高鳴った。



奇 巖 城



紙カヌーの冒険

軽気球からおりてきたいかりが、紙カヌーにかかった。
宙づりにしようというのだ。なんといういたずらだ！
わたしは、むちゅうで綱を切りはなした。

227ページをごらんください。

少年少女

世界の名作／22 フランス編 3

もくじ

ペロー童話

上崎美恵子 文作

11

長ぐつをはいたねこ……………12

おやゆびこぞう……………48

サンドリヨン……………25

ほうせきひめ……………38

読書ノート……………野田一郎……………70

ガルガンチュワ物語

ラブレール 森いたる 文作……………73

第一章 巨人のおいたち

ガルガンチュワの系図……………74

豪傑をうむために……………76

耳から生まれたあかんぼう……………79

お酒でごきげんとり……………82

わんぱく時代……………84

へんな研究発表……………86

家庭教師の死……………92

名作	世界の名作文学
シンボルマーク	ノンフィクション
	科学 (自然) 名著
	伝記

第二章 パリで修業

でつかいおくり物……………96

タルモンデーの初てから……………99

パリ見物はよかつたが……………101

つりがねそうどう……………104

欲ばり裁判……………108

めざましい勉強……………112

武術にかけても……………115

第三章 平和をみだす者

気になるけんか……………119

ジャン修道士の奮戦……………121

和議の使者……………125

第四章 正義は勝つ

悪魔の剣か……………129

黄金のこう水……………133

がまんにも限りあり……………136

テレーム僧院……………139

読書ノート……………石川二三子……………142

田園の保安官

ファールブル作……………おのちゆうこう……………145

夜のにくまれ鳥……………146

みみずくたち……………150

きらわれるふくろう……………155

読書ノート……………松尾桂一……………160



ものいうかしの木

サント文作……………田島準子……………163

(一) あくまの木……………164

(二) エンミの事けん……………165



紙カヌーの冒険

- (三) 木の上のかくれが…… 168
(四) こじきばあさんのひみつ…… 173

セーヌ川からソーヌ川へ

じょうぶな紙カヌー…… 190

ボーガン船長の紙カヌー…… 191

キビブー号の出發…… 192

ボーガンのにせもの…… 196

ソーヌ川のあらし…… 200

スイスの湖めぐり

すごい山おろし…… 207

あつ、怪獣だ!!…… 210

- (五) 新しい仕事…… 181
読書ノート…… 岡本博幸…… 187

ボーガン 作
川崎竹一文

…… 189

ゆかいなさかなとり…… 213

命がけのジャンプ…… 219

ドナウ川とライン川の大冒険

ふしぎな病氣…… 221

空中へ…… 226

ラインの激流をくだる…… 228

ああ、もうだめだ!…… 231

読書ノート…… 栗岩英雄…… 236

奇巖城

氷川ブラン 作
瓏文…… 239

第一章 深夜の怪事件

消えうせた男…… 240

草の中の血…… 244
高校生イジドル…… 248

ルーベンスの名画……………256

恐ろしいニュース……………263

第二章 ルパン対天才少年

くだけちる石像……………268

なぞの暗号文……………272

呼び出しの手紙……………278

電報を読め！……………284

命の恩人……………287

父のゆくえ……………291

第三章 うつろの針の秘密

古城の中へ……………299

フランス王のわな……………304

一冊の本を求めて……………313

破いたのはだれか？……………318

ふしぎな敵……………322

第四章 世界の冒険王

意外な出会い……………327

ほら穴の文字……………331

地下道を発見……………335

鉄のとびら……………339

最後の城主……………346

海底へ……………352

読書ノート……………清水敏伯……………355

監修 (五十音順)

岡田 要 川端康成

浜田廣介

編集委員 (五十音順)

石川 湧 今泉吉典

植田敏郎

大久保康雄

串田孫一 阪本一郎

品川孝子

土家由岐雄

滑川道夫 福井研介

村山定男

彌吉光長

ブックデザイン A・D 田辺 誠

ケース絵 駒宮録郎 村上 勉 柳 柊二

カバー絵

赤坂三好 上田武二 古賀重十夫

谷 俊彦 高橋真琴 武部本一郎

多田ヒロシ 梁川剛一 柳 柊二

依光 隆 輪島清隆

ペ ロ ー 童 話

ペ
ロ
ー
／
原
作

上
崎
美
恵
子
／
文



長ぐつをはいたねこは、ちえを
はたらかせて、人くいおにたいじ。
はいだらけになってはたらいて
いたサンドリヨンは、まほうで美
しい王女となつてぶとう会へ……。
おやゆびこぞうも、ほうせきひ
めも、かなしい思いをしても、あ
とできつとしあわせになります。
ヨーロッパに、むかしからつた
わるお話を、ペローは、じぶんの
子どものためにまとめました。
父親の気持ちにじみでている
美しく、楽しいこの物語を、じつ
くりあじわってください。

なが
長ぐつをはいたねこ



あか さか み よし え
赤坂三好／絵

川岸かわぎしの小屋こやに住すんでいたこな屋やが、病気びょうきでなくなりました。

こな屋やには、三人さんにんのむすこがありました。

こな屋やが、むすこたちにのこしたものとっては、これれそうなのひき小屋こやと、一頭いとうのろばと、一匹いっぴきのねこだけでした。

おそうしきのあと、三人さんにんのむすこは、父親ちちおやののこしたさいさんを分わけることにしました。

「長男ちやうなんのぼくからきめるぞ。ぼくは、こなひき小屋こやだ。」

一番上いちばんうへのむすこがいました。

「つぎはぼくだ。ぼくはろばだ。」

二番めにばんめのむすこがいました。

ふたりのにいがさんが、こなひき小屋こやとろばをとったので、三番めさんばんめのむすこは、いやおうなしに、ねこをもらうことになりました。

三番めさんばんめのむすこは、口くちをとがらせました。

「にいさんたちはいいな。こなひき小屋こやも、ろばも役にたつもの。

ぼくは、こんなねこ一匹いっぴき。そりゃあ、かわいがるにはいいさ。でも、役やくにたちゃしない。ねこがとったねずみを食たべて、くらしにくわけにはいかないよ。」



三番めのむすこは、ぶつぶついながら、外へ出ました。ねこは主人のあとから、ついていきました。

ねこは、ひげをびりびりふるわせて、なきました。

「ニヤーン、ぼくは役たたずじゃありません。役にたつねこです。

あなたは、いまにわかりますよ。」

このねこは、なかなかこうものでした。

ねこはこなひき場で、ねずみがあらわれるのを何時間も待つのですが、こなのはこの中で、こなをかぶって、じっとしているのです。ぴくりとも動きません。ねずみは安心して、こなひき場へ出てきます。すると、こなのはこれから、ねこがとびだして、ねずみをくわえるというわけです。

また、てんじょうから、つりさげられたようなかたちで、じっと、ぶらさがっています。ねずみは、ねこが死んだのかと思って出てきて、またやられる、というわけです。

そういうことを思いだした三番めのむすこは、ねこのことばが、ほんとうかもしれない、と思いました。

ねこは、しつぽをくるんくるんふって、

「ご主人さま、あなたは、つまらない分けまえをもらったわけじゃありませんよ。ぼくはちえをはたらかせて、きつと、あなたをしあわせにします。それで、ぼくをもらってよかったと、あなたがよろこぶようになるでしょうよ。」

とにかく、ぼくはあなたのお役にたとうと思っていますが、まず

身なりからととのえませんとねえ。

野原で仕事をするんです。それで、草の中を歩きまわれるように、ぼく

の足にあらう、長ぐつを作ってください。人間のくつは、ぼくにはぶかぶかですからね。ねこの足に

ぴったりの、すてきな長ぐつをね。

それから、ふくろを一つ……」

ねこが自信たっぷりになるので、むすこは長ぐつをほしがるなんて、へんなねこだ、と思いながら、とにかく町のくつ屋へ行つて、ねこの長ぐつを作らせました。

それから、ふくろを一つやりました。

長ぐつをはいたねこは、ふくろを首にかけ、一本のひもを持つと、

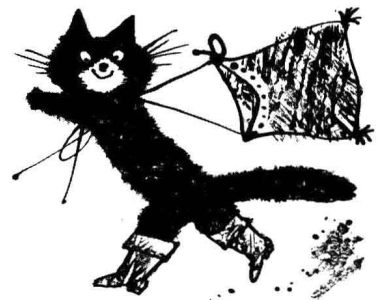
「じゃ、ご主人さま、これから仕事を始めます。」

と、広い野原へ行きました。

うさぎが住んでいるところに行くと、ねこはぬかを入れたふくろの口をあけたまま野原におき、そばで死んだふりをしていました。

ねこが、まるで石か木のきりかぶのように動かないので、わかいうさぎが安心して近づいて、ふくろの中へもぐりこみ、ぬかを食べはじめました。ねこは、ぱっと起きあがると、ふくろの口をしめて、ひもでしばりました。

ねこはうさぎのはいったふくろをかつぐと、王さまのおしろへ行





きました。

門番のまえへ行つて、おじぎをして、いいました。

「わたくしはカラバ侯しゃくさまのお使いでございます。王さまにお目にかかりたい。」

カラバ侯しゃくとは、ねこがでたらめにつけた名まえでした。

ねこは王さまのまえに出ると、長ぐつをはいた足を、かたほうひいて、うやうやしくあいさつしました。

「王さまにはごきげんうるわしく、なによりでございます。わたく

しは、近くの国に住む、カラバ侯しゃくにめしかかえられております、ねこでございます。カラバ侯しゃくは、きょうかりに出られまして、たくさんのえものをとられました。侯しゃくは、そんなける王さまに、えものの中でも、いちばんりっぱなうさぎをさしあげるように、とわたしにいつけられました。」

「ふむ、カラバ侯しゃくというかたには、お目にかかったことがないが、ねこをめしつかいにするとは、おもしろいかたじゃ。よろしく申しあげてくれ。」

王さまはきげんよく、うさぎを受け取りました。

つぎの日、ねこはこんどは麦畑に、ふくろの口をあけておきました。そばで死んだように動かないでいると、二わのしゃく(きじ科の鳥)がふくろにとびこみました。ねこは、はねおきると、ふくろの口をしめ、ひもでしばりました。

ねこは、しゃくのはいったふくろをかたにかけて、おしろへ行くと、またカラバ侯しゃくからのおくりものだといって、王さまにさししました。

「カラバ侯しゃくに、よろしくつたえてくれ。たびたびの使い、ごろうであつた。」

王さまはそういつて、ねこにごほうびをくれました。

ねこはそのあとも、何度かカラバ侯しゃくからだ、といつて、かりのえものをとどけました。

それで、ねこが行くと、王さまは、